

平成29年度福岡市小図研 5月定例会記録

5月定例会の内容

実技研修

日時：平成29年5月20日（土）
13:30～16:30 場所：福岡
市立三筑小学校図工室 内容：総会
実技研修

「パス・水彩絵の具の基本的な指導について～実技講習～」

筑紫女学園大学 一木信治先生

参加者：58名

総会

5月20日、三筑小学校にて、福岡市小学校図画工作教育研究会総会が行われました。大石会長のごあいさつに続き、事業報告、会計報告、役員紹介などが行われました。



「パス・水彩絵の具の基本的な指導について～実技講習～」 講師：筑紫女学園大学 一木信治先生

1、はじめに

・大学での授業風景 内容：色相環、気球にのって（混色）、ローラー遊び、動くおもちゃ、モダンテクニック、いわさきちひろの模写（にじみ）、はりこの面、ドライポイント、ジグソーパズルなど

- ・「現場で技能指導ができる先生に」
- ・材料や用具の基本的な扱い方、技法について

○教科書の後ろにあるページを熟読する（専門家が熟考して考えられたもので、これをみたら教えるべき内容がよく分かる）

（これと、指導書を合わせてよく読む）

○低、中、高のつながりや分野の系統を知る



パレットは、絵が見えなくなるので机に置かず、指いれに指をいれて手で持つ。



筆洗は最近の横長のものが良い。個別にパレットが洗えるので、洗うときの行列を少なくすることができる。

2、水彩絵の具を使った実技

(1) 水彩絵の具を使った実技 1

○「気球に乗って」「青いターバンの少女」

(濃い色の混色)



- ・ひとマスも同じ色がないようにする
- ・水をあまり使わず、絵の具の調整をする
- ・筆にどのくらい絵の具がついているか見極める
- ・パレットの大きい部屋に真ん中を白おいて周りに絵の具を置く。絵の具をといていく上でパレットが花のようになっているのが良い。絵の具同

士がくっついていず、飛び飛びなのはよくない。



(2) 水彩絵の具を使った実技 2

○「いわさきちひろの絵の模写」

ました)



・にじみ、ぼかしの教材をさがすのは難しいが、(薄い色の混色・にじみ)

・画用紙にモノクロのいわさきちひろの絵を印刷していただいて、それを実際の絵をみながら着色しました。(モノクロの絵は、資料としていただきいわさきちひろさんの絵はにじみをふんだんに使っている。日本画のたらしこみを使っていて、教材としてよい。

・水の量を調整することがむずかしく (いわさきさんもドライヤーを片手に描いていた)、コントロールできないことが、図工嫌いへとつながることがある。

・にじみとぼかしの違いがある

・ベースの水よりも、少ない水で色をのせる

・一色だけでにじませない

・こすらない

鑑賞について

・まずグループで鑑賞し、全体に戻す

さいごに

・教員自身が練習して技能を上げて、子どもに教えられることが大事。

